



楽しさは、自分の中から生まれるんだね。うん。

企業経営漫談士 岡野実空

職場のマネジメントの極意、「あ・た・ま」。これは、その「明るく、楽しく、前向きに」の核になる「楽しさ」が、自分の考え方や行動次第で生まれるという、奥深い広告コピーです。
(1995、関東交通広告協議会、小川しのぶ)
今回のコラムは、集団を構成する個人がそれを実感するための、大本となる考え方について考えます。

視点1: 背景と真意

先のコラム(C-14)で取り上げた、「人間のルールだけで生きていくと、見えないよ。」そこでは、対の前半である今回のコピーを受け、私たちが欲望に従って行動し過ぎたために惹き起こした、環境破壊や格差問題などを取り上げました。また各国がようやくそれに気づき、総意として改善に取り組み始めた、“SDGs”についても考えました。

さて今回は、その前半のコピーがテーマ。それは猫じゃらしと戯れる野良猫の写真に沿えられたもので、個々の人間の「楽しさ」とは何か、それは何から生じるのかを考えさせる、哲学的な問いかけでした。またその問いをつうじ、それが生まれる日常を黒子として支える、「公共交通」という社会インフラの存在意義をさりげなく確認しています。

しかし、半世紀に及ぶ経済成長は人々から「思想」を奪い、さらにバブルが「感性」を狂わせたため、その問いかけは当時、コピーライターの「うん。」という自問自答に止まってしまいました。そして多くの人は、コロナ禍のいま、「日常」の中にあるさやかな「楽しさ」をようやく実感しています。

視点2: 教訓と学習

1994年、平成天皇・皇后両陛下の訪米時、歓迎会のスピーチでビル・クリントン大統領が引用した、幕末の歌人・橘曙覧(たちばなのあけみ)の『独楽吟』9首目。それは、「たのしみは朝おきいで、昨日まで無りし花の咲けるを見る時」の鬼怒鳴門(故ドナルド・キーン)による英訳でした。

さて今回のコピーは、海外の高い評価を受け、自国の文化を見直すという我が民族固有の習性に倣い、「たのしみは」で始まるその52首をライター自身がじっくり味わい、その全体

- ◆教訓:「喜びは分かると増える。悲しみは分かると減る。」(古館普)
- ◆参照コラム:『三々な経営』
E-4「ライフシフトの必要条件①あたま」
E-5「ライフシフトの必要条件②あにき」

の感想を「楽しさは」のコピーにしたものと考えられます。

それは「幸福」という概念を持たなかった私たちの先祖が、貧しい「日常」の生活の中から見出した、ひそやかな「たのしみ」の一覧表。文明開化以降、ひたすら追い求めて来たカネや地位、名誉などが「幸福」の正体ではなく、自分、家族、友人との関係や、身近なモノやコト、自然から得られる「たのしみ」、すなわち「感性」による内発的なトキ(時間)にあることをしみじみ教えてくれています。

視点3: 異論その他

主人公がひとりで街のメシを食べまくる、テレビ東京の人気番組「孤独のグルメ」。それは、あくまでも自分の価値観にこだわるグルメがテーマ。また本当に好きものを食べるなら、他人を気にせず、存分に味わえるひとりのときに限ることを、俳優の松重豊が実践してみせるシリーズです。

そういえば最近、女房が私に早く寝ようしきりに言います。どうやら好きな俳優の出演する韓流ドラマにはまり、ひとりで思う存分、感情移入をして見たいらしい。私だって、井上尚弥のボクシング・タイトルマッチは女房なんかと観たくない!

すなわち、自分自身の真の価値観は、孤独のときにこそ出現する! 孤独は寂しいばかりじゃない、時には心の解放も生むんだね。うん。
(一カ 廉)

今回の広告コピーは、一般人対象。組織リーダーとしての皆さんは、ぜひその一段上を目指してください。それは、「他人や社会の楽しみを、自らの楽しみとする」レベル。そのコピーは、「楽しさは、他者の楽しさを共に味わうことなんだね。うん。」

2020年12月21日 実空